

自然

気候

福島県の平均気温を見ると、等温線が南北に走る山脈にほぼ平行し、会津の山地、阿武隈山地などには常に低温域が見られ、夏には内陸の福島・会津盆地などに最高域、冬には小名浜など海岸地方に最高域がある。内陸は海岸地方より、夏と冬の気温差が一般に大きい。矢吹地域は、福島・若松などに比べてそれほどではない。これは、標高、山脈などの地形によるものと考えられる。

矢吹の年平均気温二二.五度C（昭和四十七年）、二二三度C（昭和四十八年）で温帯に属し、気温の年変化に特異な点はないが、一月下旬から二月中旬にかけて最も寒く、八月が最高気温となり、郡山より少し寒く、白河よりわずかに暖かい。
クライモグラフから見ると、関東に類似し、温暖湿潤型気候と考えられる。

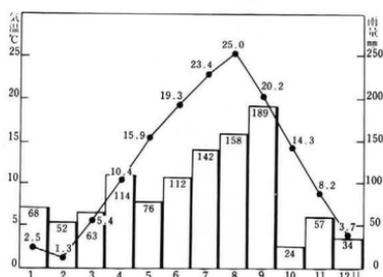
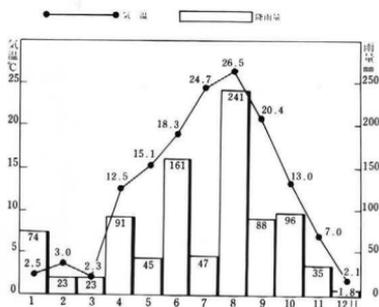


矢吹ヶ原

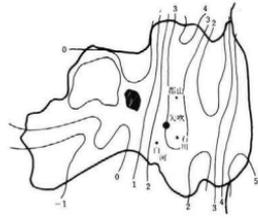
月別降雨量と月平均気温

昭和47年(1972)

昭和48年(1973)



平均気温（等温線）
（48年2月）

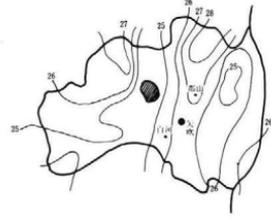


動物・植物

温帯の年平均気温は一般に六度C
〜三度Cといわれるので、矢吹地
域は暖帯に近い温帯であり、生物相
も比較的豊富な地域と考えられるが、
降水量が少なく、乾燥した地帯であ
り、地形の変化に乏しく、土地も肥
よくでないために、特殊なものとし
てとりあげるものは少ない。

温帯は、落葉広葉樹林で代表され
るが、標高三〇〇メートル内外のい
わゆる矢吹ヶ原は、特にその昔、宮
内省の御料地の頃のキジの狩猟場と
して、あるいは、国营猟区として、
飼育放鳥されていた時代には、クリ、
コナラにアカマツのまじった雑木林
が多く、キジ、ヤマドリはもちろん
野鳥の数も多かったと思われる。現

（48年8月）



在では開拓が進み、伐採され、その
名残りをとどめる程度になりつつあ
る。もともと中通り地域はアカマツ
森林区といわれ、気候、土壌、地史
などからして、アカマツが極相林と
なるのが普通であるが、現在のアカ
マツ林は、ほとんどが植栽林であり、
須賀川地域に比べて、その森林は少
ない。

また、矢吹地域には池沼が多く、
その岸辺は湿地帯となり、湿性の植
物も多く見られたが、開田によりし
だいにその姿を消してきている。
しかし、矢吹は厳冬の頃には、オ
オハクチョウの飛来をみることもあ
り、公害の影響も少なく、すばらし
い自然環境に恵まれた地域であるの
で、いつまでも保持したい。



くさぼけ（しどみ）

中通りはアカマツ森林区といわれ
気候・土質共にアカマツの生育に適す
ると考えられる。しかし矢吹町内
では開拓が進み須賀川地域に比し少な
い。



みごとに成長した松植林（矢吹 大林）

クリ・コナラ雑木林（三城目）



標高七〇〇メートル以下に生ずる。
落葉広葉樹の代表森林。一五年〜二
〇年毎に薪炭材として伐採されてき
た林で普通にみられる。落葉かき
どされる所では森林を構成する植物
の種類も多い。

杉植林は極めて少なく、材質も良
好とはいえないが点在する。

杉植林（須乗）





さぎそう 低地には池沼が極めて多く、その岸辺は湿地帯となり湿性の植物も多くみられたが、開田が進み次第に減少し、その姿を消しつつある。



大池公園
町民のいこいの場として着々と整備が進められている。



さぎそう群生



とみやう

須乗の松

三叉路のほぼ中央にあり、目通り3.05m 樹高約15mの老松である。



松並木（中畑字五本松）

奥の細道自然歩道の名勝の一つ。明治8年に補植されたが目通り170cm、樹高25mにも達するものがほとんどで、往時を物語るにふさわしい松並木である。

陣屋の二本カヤ（中畑字本村）

県指定天然記念物。その昔当地方の領主松平軍次郎の陣屋建設当時、すでにみごとに生育していたので残したといわれる。二本あるが大なるは根回り5.2m 樹高20m。樹勢もすこぶる旺盛である。



吉山王の桜

目通り4.2m 地上2.3mより四本に枝分れ、樹高18m、樹冠25mの桜の大樹で樹勢も旺盛である。





ヤマドリ キジ科。姿・形は殆んどキジと同じであるが、羽の色が全く異なる。キジに劣らない名鳥で、キジよりも山の手に多く生息する。



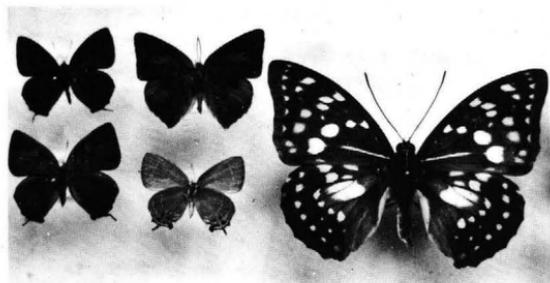
キジ キジ科。日本固有種の一つ。大変美しい姿色彩の鳥で、山麓の林や草原・丘などに生息。矢吹ヶ原には多かった。



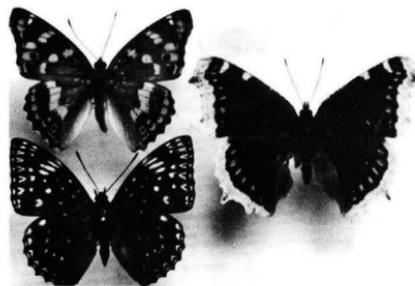
ヒバリ(ヒバリ科)
草原・麦畑などに住み地上に巣をつくる。春になると雄が空中でさえずるのでよく知られる。



コジユケイ
中国から輸入され、人工的に繁殖された鳥で、雑木林や竹やぶに多い。



クロミドリシジミ (上 ♂) (下 ♀) ウラギンシジミ オオムラサキ(♂)
タテハチョウ科。幼虫はエノキの葉を食べる。開張は♂で9cm。♀は更に大きい。



コムラサキ(左上) スミナガシ(左下) キペリタテハ(右)

蝶 類

日本には 200余種生息しているが、矢吹附近では50~60種程度である。そのうち特に珍しいものを載せたものであるが、特にオオムラサキは国蝶に指定されている大型で美しい蝶である。

コムラサキ タテハチョウ科。幼虫はヤナギの葉を食べる。6月~7月発生。開張は7cm位。♂は紫の幻色を翅表から放って美しい輝きをあらわす。

スミナガシ タテハチョウ科。幼虫はアワブキの葉を食べる。開張6.5~7cm。サツマガスリのような模様あり。

キペリタテハ タテハチョウ科。一般には山地に多い。開張7.5cm位。6月~9月に出現。ヤナギの葉を食べる。

シロスジカミキリ クリ、クヌギ、コナラ、イチジク等

ゴマダラカミキリ 日本全土に分布し、ヤナギ、ポプラ、ミカン類を食す。6月~8月出現。大型のカミキリムシで体長が40~50mmもある。



